

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	教育委員会運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	関 正人			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	教育委員会の更なる活性化を図るため、学校や教育機関との意見交換の機会の場を設ける。	③令和3年度に取り組む改革・改善内容	教育委員会の更なる活性化を図るため、引き続き学校や教育機関との意見交換の機会の場を設ける。
②①に基づく取り組み結果	教育委員会定例会を学校給食センターを会場として開催するなど、学校現場との意見交換を積極的に行い、教育委員会の活性化を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	教育委員会委員	意図(対象をどうするのか)	人格が高潔で、教育、学術、文化に関する識見を有する者を任命する
②事務事業の概要	定例会を開催し、鎌ヶ谷市の教育方針や教育行政にかかる議決事項を審議し決定している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	教育委員会の大幅な教育政策の変換期にあることから、他市の動向を把握しながら、新しい教育委員会体制を確立する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	生涯学習の推進、芸術・文化の振興、文化財の保存、スポーツの振興など様々な教育行政に対し、教育委員会委員による多様な民意を反映した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	定例会の回数	12	12	12	回	実施回数
	ii	臨時会の回数	10	10	5	回	実施回数
	iii	議決された案件	41	47	32	件	議決案件数
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	2,325	2,208	金額(千円)	内容	2,258		
国支出金(千円)			2,208	教育委員会委員報酬			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,325	2,208			2,258		

IV 評価・検討

①課題	教育に携わる者の意欲や達成感の向上を図り、鎌ヶ谷市の教育行政を推進することが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	鎌ヶ谷市の教育行政の発展のため、的確な情報や学校の課題を引き続き把握する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設維持補修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	関 正人			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小学校のトイレ改修工事、道野辺小学校の体育館改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。	③令和3年度に取り組む改革・改善内容	小中学校のトイレ改修工事、鎌ヶ谷小学校の体育館改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。
②①に基づく取組み結果	鎌ヶ谷小・東部小・南部小・西部小・道野辺小・五本松小・鎌ヶ谷中のトイレ改修工事、道野辺小の体育館改修工事の際に老朽化した建具の改修を併せて行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	老朽化した施設、設備等について、計画的に改修を行い、学習環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の建設時期が一定期間に集中していることから、全体的に老朽化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	予定した事業を全て計画通りに完了し、学習環境の向上を図った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	校舎工事に関する生徒/全生徒	8	9	0%	実施校生徒数/全生徒数
	ii	体育館工事に関する生徒/全生徒	0	14	9%	実施校生徒数/全生徒数
	iii	その他工事に関する生徒/全生徒	36	53	81%	実施校生徒数/全生徒数
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	757,118	871,456	金額(千円)	内容	1,558,332	
国支出金(千円)	73,584	139,385	212,248	小中学校(9校)防火戸・防火シャッター改修工事	480,428	
県支出金(千円)	0	0	89,570	道野辺小体育館改修工事	0	
市債その他(千円)	567,900	658,187	85,634	南部小トイレ改修工事(校舎)	1,017,300	
一般財源(千円)	115,634	73,884	67,430	五本松小トイレ改修(建築)工事	60,604	

IV 評価・検討

①課題	施設の老朽化に伴い、事業の進捗ペースを速める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、改修ペースを前倒しする必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	道野辺小体育館改修工事、南部小トイレ改修工事、防火戸・防火シャッター改修工事 ほか	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。その他トイレ改修工事の設計を行った。	1,534,797	2,218,514	当初	573,659	R1からの繰越	564,054
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越	683,717		
④未完了・非着手の理由	12月及び3月補正予算で追加した鎌ヶ谷小体育館改修工事、南部小・鎌中・二中・三中・四中トイレ改修工事を繰越した為。			補正	961,138	現年分	307,402
				流用・充当			
				令和3年度への繰越額(単位:千円)		1,135,802	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設楽器更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	関 正人			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	中学校5校の楽器更新を行うとともに、令和元年度にリース方式により更新した全小中学校のグランドピアノについて、賃借料の支払いを行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	令和3年度は、小学校9校の楽器更新を行うとともに、令和元年度にリース方式により更新した全小中学校のグランドピアノについて、賃借料の支払いを行う。
②①に基づく取組み結果	中学校5校において、楽器の更新を行うとともに、全小中学校のグランドピアノについて、賃借料の支払いを行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	小中学校において、購入から年数が経過し、老朽化が進んでいる楽器の更新を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	小中学校の楽器については、購入から年数が経過し全体的に老朽化が進んでおり、学校及び保護者等からは更新(改修)の要望が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	中学校5校において、楽器の更新を行うとともに、全小中学校のグランドピアノについて、賃借料の支払いを行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	実施校生徒/全生徒	32	100	100	%	実施校生徒数/全生徒数
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	5,949	10,554	金額(千円)	内容		10,556	
国支出金(千円)			4,583	中学校楽器購入			
県支出金(千円)			3,838	小学校グランドピアノ/借上料			
市債その他(千円)			2,134	中学校グランドピアノ/借上料			
一般財源(千円)	5,949	10,554				10,556	

IV 評価・検討

①課題	学校施設における楽器については老朽化が著しいことから、計画的に更新を行っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	引き続き、計画的に更新していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	中学校5校の楽器更新及びグランドピアノ賃借料の支払	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	10,556	10,556	当初	10,556	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	10,554
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人件費の抑制を図る。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	学校用務員業務について、学校および委託業者と連携をとり、円滑な学校運営を図る。
②①に基づく取組み結果	学校施設環境整備員について民間委託業者と調整を行い、市内小中学校12校について委託を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	学校用務員の退職者	意図(対象をどうするのか)	民間委託により人員補充を行う
②事務事業の概要	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人員補充を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成15年度より3校の委託を開始し、平成30年度は12校について委託を行った。現在委託を行っていない学校の委託についても、引き続き学校および委託業者と調整を行う。(北部小:令和6年度末、中部小:令和18年度末 退職予定)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	平成30年度より新たに委託を行った学校施設環境整備員(道野辺小)について、学校及び業者と連携をとり、円滑な学校運営を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	民間委託とした学校数	12	12	12	校	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	21,632	23,444	金額(千円)		内容	24,917	
国支出金(千円)			18,808		学校施設環境整備員派遣委託		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	21,632	23,444				24,917	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市職員の用務員が配置されている学校と業務内容に差が生じないよう、学校および業者との調整が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	人件費の削減を図るため、継続的に行う事業であり、今後も民間委託を推進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長				

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数指導の質の向上を図るため、市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施し、きりり先生研修会を含め、効果的な実践について指導支援していく。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	少人数指導の質の向上を図るため、きりり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について指導支援していく。
②①に基づく取組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。指導計画、指導報告を精査し、授業改善に繋げる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ少人数教育指導教員(きりり先生)を配置し、きめ細かな学習指導を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	少人数指導教員(きりり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	きりり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きりり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	23,190	29,453	金額(千円)	内容		32,050	
	国支出金(千円)		25,498	報酬			
	県支出金(千円)		3,468	職員手当等			
	市債その他(千円)		486	旅費			
	一般財源(千円)	23,190	29,453	2	使用料及び賃借料	32,050	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	効果的な少人数指導については日々授業改善を図っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長				

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の専門性向上を図るために市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施。また、市内全14校で1学期と2学期に各1回心理発達相談員による巡回相談を実施し、専門的な指導・助言を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導を行う。
②①に基づく取組み結果	年4回の特別支援教育推進指導教員の研修会にて事例報告やグループ協議、情報交換を積極的に取り入れた。心理発達相談員による巡回相談を市内全14校で複数回実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ(大規模校2名)ずつ特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に対してきめ細かな教育支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)により、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に対してきめ細かな教育支援が可能となり、児童生徒の個々の具体的な目標に合わせた学習および生活上の困難の改善・克服を目的とした指導を計画的に実施することができた。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	148	157	149	人	業務取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	42.7	32.5	21.4	%	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	31,775	36,706	金額(千円)	内容		40,633	
国支出金(千円)			31,438	報酬			
県支出金(千円)			4,475	職員手当等			
市債その他(千円)			791	旅費			
一般財源(千円)	31,775	36,706	2	使用料及び賃借料		40,633	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	対象となる児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導のための時間の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	特別な支援を要する児童生徒の増加と個々の特性に応じた教育的ニーズの高まりにより、保護者の期待と信頼が大きい。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	研修及び巡回相談の充実	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事例報告と情報交換会の実施	37,866	38,036	当初	38,801	36,706	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		現年分	36,706
③達成状況	完了			補正	-915			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	150			
				令和3年度への繰越額(単位:千円)		0		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	小中学校ICT環境整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	新泉 貴久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	運用方針を定め、児童生徒には使用のルールを配布した。それらを基に本格的な活用と検証を進めることで、学びの充実を図る。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校	意図(対象をどうするのか)	通信ネットワークの整備
②事務事業の概要	GIGAスクール構想に対応するため、小中学校に高速大容量の通信ネットワークを整備するとともに、学習に必要な機器の整備及び家庭学習の支援を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	教育ICT環境の充実は文部科学省もGIGAスクール構想を提唱し、積極的に推進している。また、今般の新型コロナウイルスの影響により、ICTを活用することですべての子どもたちの学びを保障することの重要性が高まってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市内小中学校の全児童生徒に向けた学習用端末の整備が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	児童生徒学習用端末の整備台数			8,616	台	事業取得
	ii	児童生徒学習用端末の整備率			100	%	事業取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	0	622,956	金額(千円)		内容		
国支出金(千円)		383,577	222,750	委託料			
県支出金(千円)			165,709	備品購入費			
市債その他(千円)		172,200	153,716	使用料及び賃借料			
一般財源(千円)	0	67,179	78,089	工事請負費		104,355	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和2年度に整備が完了した。令和3年度は活用内容を検証する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	令和2年度内に整備を完了させ、試験運用期間を設けることができた。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	学習用端末のリース、家庭学習の支援、大型提示装置の購入		令和2年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費		予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	324,348	671,925	当初		622,956	R1からの繰越	347,577
③達成状況			完了	R1⇒R2繰越		347,577	現年分
④未完了・非着手の理由			補正	324,348			
			令和3年度への繰越額(単位:千円)				0